

**GERMANIUM OINTMENT****Publication number:** JP6321789**Publication date:** 1994-11-22**Inventor:** OGATA IKUO**Applicant:** OGATA IKUO**Classification:****- international:** A61K9/06; A61K33/24; A61P17/00; A61P25/02; A61P43/00; C01G17/00; C22B41/00; C01G17/00; C22B41/00; A61K9/06; A61K33/24; A61P17/00; A61P25/00; A61P43/00; C01G17/00; C22B41/00; C01G17/00; C22B41/00; (IPC1-7): C01G17/00; C22B41/00; A61K33/24; A61K9/06; A61K33/24**- european:****Application number:** JP19930109198 19930511**Priority number(s):** JP19930109198 19930511[Report a data error here](#)**Abstract of JP6321789**

**PURPOSE:**To obtain a germanium ointment having large effects on the relaxation and elimination of stiffness and pain, the recovery of fatigue, etc., and not generating rash and itch at an applied place. **CONSTITUTION:**The germanium ointment is prepared by mixing medicinally active ingredients containing germanium as a main ingredient with a conventional ointment base material. When the ointment is rubbed into a lesion, stiffness and pain are eliminated, and the recovery of fatigue is accelerated.

---

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-321789

(43)公開日 平成6年(1994)11月22日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 33/24	AAQ	9454-4C		
	ABJ			
	ADA			
9/06	H	9455-4C		
// C 0 1 G 17/00				

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 3 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平5-109198

(22)出願日 平成5年(1993)5月11日

(71)出願人 000204952

大形 郁夫

神奈川県秦野市平沢332-14

(72)発明者 大形 郁夫

神奈川県秦野市平沢332-14

(74)代理人 弁理士 須山 佐一

(54)【発明の名称】 ゲルマニウム軟膏剤

(57)【要約】

【目的】 凝りや痛みの緩和や解消、疲労回復などに大きな効果を有し、かつ被着部にかぶれや痒みを生じさせることがないゲルマニウム軟膏剤を提供する。

【構成】 本発明のゲルマニウム軟膏剤は、ゲルマニウムを主成分とする薬効成分を、通常の軟膏基剤に混和したものである。これを患部に擦り込むことにより、凝りや痛みが緩解し疲労回復が早まる。また、擦り込むだけで患部に被着することができ、絆創膏等を使用する必要がないので、皮膚呼吸が妨げられずかぶれや痒みが生じない。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ゲルマニウムを主体とする成分を、軟膏基剤に混和してなることを特徴とするゲルマニウム軟膏剤。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、ゲルマニウムを高濃度に含有し、身体各部に擦り込むことにより、凝りや痛みの緩解、疲労の回復などに効果を発揮する軟膏剤に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 ゲルマニウムは、金属と非金属との中間的な性質を持つ亜金属であり、原子番号32の半導体元素である。そして、ゲルマニウムの半導体としての特性が、生体の自然治癒力という自衛力を誘起し向上させるため、近年疾患の治療や健康増進の目的で広く用いられつつある。

【0003】 すなわち、生体各部の細胞は電荷を持った極超微小物の凝集体であり、半導体的な機能を備えていると考えられ、電位の乱れにより身体の不調が生じるばかりでなく、自然治癒力（回復力）の発現が妨げられると考えられる。そして、ゲルマニウムの半導体としての特性により、体内の電荷バランスおよび電位の調整が行われ自然治癒力が誘起される。

【0004】 また、ゲルマニウム（の持つ電子）は脱水素イオン（脱プロトン）作用を有し、酸素の代替物として機能するため、生体組織内に浸透したゲルマニウム（イオン）は、酸素欠乏すなわち水素イオン濃度の上昇に対して、水素イオンであるプロトン（老廃物）を排泄し、細胞の新陳代謝を活発にする働きをする。その結果、皮下組織中の毛細血管においては、血液の浄化作用が行われ、血液のPHが正常な値に調整される。さらに、組織内に浸透したゲルマニウムイオンは、インターフェロン誘起剤として働くという説もあり、そのためγ-インターフェロンの濃度が局所的に高まり、身体の防御機構の活性が向上するとも考えられる。

【0005】 従来から、前記したゲルマニウムを用いた治療方法がいろいろ行われている。すなわち代表的なものとして、ゲルマニウムの固形体（小ボタン状の粒）を、身体部の凝りや痛みのある部分あるいはツボに、絆創膏を用いて貼ることが従来から行われている。この方法は、固形体を皮膚に直接接触させることが効果をもたらす基本であり、前記した組織内への浸透による効果の他に、患部の圧触によるツボ刺激効果および発熱効果を有し、紛失しなければ半永久的に使用することができる。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながらこれらのゲルマニウムを用いた治療方法のうちで、前者の固形体を貼布する方法においては、絆創膏等の貼着する手段によっては、皮膚呼吸が妨げられかぶれが生じたり痒みを

覚えることがあった。

【0007】 本発明はこれらの事情に鑑みてなされたもので、凝りや痛みの緩和や解消、疲労回復などに大きな効果を有し、かつ被着部にかぶれや痒みを生じさせることがないゲルマニウム軟膏剤を提供することを目的とする。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】 本発明のゲルマニウム軟膏剤は、ゲルマニウムを主体とする成分を、軟膏基剤に混和してなることを特徴とする。

【0009】 本発明において軟膏基剤としては、脂肪、脂肪油、ラノリン、ワセリン、グリセリン、ロウ、樹脂、硬膏剤、高級アルコール、グリコールのように、通常軟膏剤の基剤として用いられる不活性な半固形材料は全て使用することができる。

【0010】 また、このような軟膏基剤を含む軟膏剤全体に対して、ゲルマニウムの含有濃度は0.5～30重量%、好ましくは1～20重量%が溶解に好適であり、ゲルマニウム成分以外に、その他の液状または粉末状の薬効あるいは改質成分を混和することができる。なお、ゲルマニウムを軟膏基剤に溶解させずに混和する場合には、軟膏剤全体に対して、50重量%以上混ぜ合わせることができる。

## 【0011】

【作用】 本発明のゲルマニウム軟膏剤においては、この軟膏剤を、凝りや痛みのある部分やツボに擦り込むことによって、軟膏の主成分でありゲルマニウムが、筋肉に直接作用して適度に弛緩させるとともに、皮膚を通して体組織内にも浸透する。そして、浸透したゲルマニウムが、自然治癒力という自衛力を誘起し、自己免疫作用を内部から活発化させることにより、高い消炎治療効果を示す。

【0012】 このように本発明のゲルマニウム軟膏剤は、眼精疲労、肩凝り、腰痛などの凝りや痛みの緩解に、またスポーツ、労働中の打撲痛、筋肉痛の緩解や疲労回復などに優れた効果を示す。また、患部に擦り込んでも皮膚呼吸を妨げることがないので、かぶれや痒みが生じない。さらに、この軟膏をよく擦り込んだ後、繊維基材の表面に粉末状のゲルマニウムを印刷により付着含有させた腹巻きや肌着、サポーターなどを着用した場合には、ゲルマニウムの接触乃至浸透による効果が相乗的に発揮され、さらに良好な治療効果が得られる。

【0013】 なお、本発明の軟膏剤を、慢性疾患や肩凝り、頭痛、内臓疾患に起因する痛みなどの治療に用いた場合に、時として症状がかえって悪くなったように感じることがある。これは好転反応が起こったことに起因し、長年の身体の状態の習慣を修正しようとするスタートあるいは前兆と考えられるので、しばらく使用を停止するなど様子を見ながら再び使用を開始することが適当である。また、習慣性や副作用は全くないので、安心

して長期間使用することができる。

【0014】

ゲルマニウム粉末  
 鉱泉水  
 亜鉛華  
 L-メントール  
 DL-カンフル  
 サリチル酸メチル  
 ユーカリ油  
 テレピン油  
 防腐剤  
 プロピレングリコール（保湿材）  
 および海草エキスを含む軟膏基材

以上の成分を常法により良く混和し、常温で容易に皮膚に塗布できる稠度を有するクリーム状の軟膏剤を得た。得られた軟膏剤を、眼精疲労、肩凝り、頭痛、腰痛、およびスポーツ、労働作業による打撲痛、筋肉痛などを訴えた患者の患部に擦り込んだところ、短時間あるいは短期間で凝りや痛みが緩解し、疲労回復が早まったという治験が得られた。また、皮膚呼吸が妨げられないので、かぶれや痒みが生じることがなかった。さらに、良く浸透するので患部がベタベタすることがなく、毛髪の中や襟首の生え際などにも十分に擦り込むことができた。 ※

\* 【実施例】以下、本発明の実施例について記載する。

\* 【0015】実施例

20 g (2重量%)  
 30 g (3重量%)  
 5 g (0.5重量%)  
 20 g (2重量%)  
 90 g (9重量%)  
 2 g (0.2重量%)  
 5 g (0.5重量%)  
 5 g (0.5重量%)  
 2 g (0.2重量%)

821 g (82.1重量%)

※ 【0016】

【発明の効果】以上説明したように本発明のゲルマニウム軟膏剤は、身体の電位バランスを調整し自然治癒力を誘起向上させる機能を有するゲルマニウムを、高濃度で含有しているので、患部に擦り込むことにより、凝りや痛みを緩解し疲労を早期に回復させる。また、皮膚呼吸を妨げないのでかぶれや痒みを生じさせず、かつ製造が簡単でコストが安い。

【0017】

フロントページの続き

(51) Int. Cl.<sup>5</sup>

C 2 2 B 41/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所